

ORIENTAL STUDIES TRIPOS Part II
Japanese Studies

Thursday 3 June 2010

09.00 – 12.00

J.12 JAPANESE TEXTS, 1

Candidates should answer **both** questions in Section A and **one** question from section B.

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Section booklet.*

STATIONERY REQUIREMENTS

*20 page Answer Book x 1
A Rough Work Pad*

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed that you may do so by the Invigilator

SECTION A

Candidates should answer BOTH questions:

- 1 Translate into English: [35 marks]



pm

目にしてるのは都市の姿だ。

空を高く飛ぶ夜の鳥の目を通して、私たちはその光景を上空からとらえている。広い視野の中では、都市はひとつの巨大な生き物に見える。あるいはいくつもの生命体がからみあって作りあげた、ひとつの集合体のように見える。無数の血管が、とらえどころのない身体の末端にまで伸び、血を循環させ、休みなく細胞を入れ替えている。新しい情報を送り、古い情報を回収する。新しい消費を送り、古い消費を回収する。新しい矛盾を送り、古い矛盾を回収する。身体は脈拍

question continues...

のリズムにあわせて、いたるところで点滅し、発熱し、うごめいている。時刻は真夜中に近く、活動のピークはさすがに越えてしまったものの、生命を維持するための基礎代謝はおとろえることなく続いている。都市の発するうなりは、通奏低音としてそこにある。起伏のない、単調な、しかし予感をはらんだうなりだ。

私たちの視線は、とりわけ光の集中した一角を選び、焦点をあわせる。そのポイントに向けて静かに降下していく。色とりどりのネオンの海だ。繁華街と呼ばれる地域。ビルの壁面に取り付けられたいくつもの巨大なデジタル・スクリーンは真夜中を境に沈黙に入るが、店頭のスピーカーはまだヒップホップ・ミュージックの誇張された低音をひるむことなくたたき出している。若者たちで混み合った大きなゲームセンター。派手な電子音。コンパ帰りらしい大学生のグループ。髪を明るい金髪に染め、ミニスカートの下から、健康な両脚をむき出しにした十代の女の子たち。最終電車に乗り遅れないように、急ぎ足でスクランブル交差点を渡っていくサラリーマン。しかしこの時刻になっても、カラオケ店の呼び込みは相変わらずにぎやかに続いている。派手な外装を施した黒のワゴン車が、街の品定めをするようにゆつくりと通りを流している。真っ黒なフィルムが貼ら

れた窓ガラス。それは深海に生息する、特別な皮膚と器官をもった生き物を思わせる。二人組の若い警官が緊張した面持ちで同じ通りをパトロールしているが、彼らに注意を払うものはほとんどいない。この時刻の街は、街そのものの原理に従って機能している。季節は秋の終わり。風はないが、空気は冷ややかだ。あとほんの少しで日付が変わろうとしている。

血管 vein, artery

とらえどころのない slippery, elusive

細胞 cell

うごめく squirm, wiggle

代謝 metabolism

うなり beat, boom

奏でる play (music)

皮膚 skin

器官 organ (of the body)

Murakami Haruki, *Afutā dāku* (2006), p. 5-7.

(TURN OVER)

2 Translate into English: [35 marks]

日本の不在

今こそ必要な人的ネットワーク

日本国際交流センター理事長

山本正

日米の安定した関係の基礎には、幅広い指導者層の交流の蓄積がある。しかしいま、この「目に見えない」貴重な外交資産が失われつつある。もう一度、その重要性に目を向けたい

変わるワシントンD.C.の風景

米国の首都ワシントンD.C.が米国の国内政治の観点からも、対外関係の観点からも、重要な役割を果たしていることはよく知られている。世界の超大国の中枢を担うホワイトハウス、国際政治を取り仕切る國務省、五角形^{ペンタゴン}のユニークな建物からもその世界的影響力が感じられる国防総省、その他多くの政府機関が町の中に散在する。加えて、民主主義のプロセスの中核的な活動を展開し、国際社会への影響力も発揮してきた連邦議会が議事堂を中心に威容を示している。ワシントンD.C.は、たしかに威厳に満ちた、しかし魅力的な町である。ただ、私が頻繁に足を運ぶようになった一九六〇年代半ばは、それでもずいぶんと静かな町であった。レスト

ランの数も少なく、夜ともなると街路の人影もまばらであった。夕食は自宅で食べる人が多いのだとの説明を受けたものである。

ワシントンD.C.はこの二〇一三〇年でダイナミックな変化を遂げてきた。急激に増えてきたレストランやバーが夜遅くまで賑わい、町中の人の動きや車の行き来も活発になった。要は、ワシントンD.C.の機能が拡大し、住民や訪問者も飛躍的に増大したということなのである。ロビイストの数も間違いなく増えていたのであるが、外国企業も含めた有力な企業や企業の連合組織、州政府企業団体、多様な非営利組織などが次々に事務所を開くようになった。国際機関の本部や代表部も多様になり、活動的になってきた。端的にいうならば、ワシントンD.C.が米政府の政策決定プロセスのみならず国際的

question continues...

な政策論争や政策形成にとつての重要なハブの役割を強めるようになってきたのである。

このような新しい展開を象徴的に示してきたのが、相当数の民間のシンクタンクがワシントンD.C.を本部や支部として積極的な活動を展開するようになったことであるが、そのなかでも外交関係のシンクタンクの活動が顕著である。外交的な課題が複雑で多様なものになり、政府間の協力がこれまで以上に重要になるとともに、これらシンクタンクの役割も重視されるようになった。共同研究活動、セミナー、国際会議などには、米国のみならず、海外の政府関係者も招待されている。また、いくつかの国は、政府関係者を研究フェローとしてこれらワ

シントンのシンクタンクに派遣するようにもなっている。このような流れは、米国と主要国家の間の政策レベルでの情報交換、知的政策対話、共同研究、人的ネットワークの形成に大きく役立っており、それがさらにシンクタンクの機能を一層強化することになっている。それだけではない。連邦議会の議員やスタッフなどと主要諸国の議会関係者との交流活動も主要諸国において重要視され、これら多様な分野の関係者のワシントンD.C.への訪問も年々増えてきた。

「効率」を長期的に考える

このようなワシントンD.C.で特に顕著に見られる米国や国際社会のダイナミックな流れに接するにつけても近年、日本の存在感がきわめて希薄になりつつあることが気になる。日本の外交力の強化、共通の地球的課題への協力の促進、日米関係を中心とする対外関係推進のインフラの構築などの観点から大いに懸念されるのである。このような傾向をより詳細に把握するため、日本国際交流センターでは、「政治的変化のなかでの日米政策対話の再活性化」をテーマに研究調査を実施している。これを通じて、上記の日米間の政策対話・交流の低迷ぶりとその原因を垣間みることができる。

蓄積
効率

stock, accumulation, reserve
efficiency

Yamamoto Tadashi, 'Nihon no fuzai,' Gaikō Fōramu (January 2010), pp. 18-19

(TURN OVER)

